研修報告　Ｃ班３グループ　ファミ★レス

テーマ：**『出口を見据えた入口の整備』**

テーマの選定

テーマ選定にあたり、大学が本来持つべき役割について考えた後、現状の問題点について考察し、問題点より浮かび上がった大学が立ち向かうべき課題をテーマとして捉えた。

大学の役割

大学は、学生が持つ目標・目的に向かい、様々な活動を行うステージを提供する場であると考えた。そのステージでの活動を通じて、様々な実体験を積み社会において即戦力と成り得る人材を輩出するのが、大学および学生の最終目的地と捉えた。

よって、大学の役割とは**『優秀な人材を社会へ輩出すること』**であると考えた。

役割を果たすために大学がすべきこと

大学には、目的意識を持たずに入学する学生も存在する。そのような学生に対して、大学は目的意識を芽生えさせるように促すことが必要である。よって、最初に必要になってくるのが、下記の点であると考えた。

- 学生自身が、目的・目標を持てるようにする。

目的意識が芽生えた学生や、ある分野への就職等、大まかな目標を持った学生に対しては、次のステップとして、将来像を確実に描いてもらう事で、明確な目的意識が持てる為、下記の点が必要だと考えた。

- 将来像が明確になるような支援をする。

将来像が描けた学生や、上記とは反対に明確な目的意識・将来像を持って入学する学生に対しては、的確な支援を与えられるようにすることが必要だと考えた。

- 大学の支援体制を整備する。

現状の分析（問題点の洗い出し）

学生目線に立ち戻ると、大学自体に興味がなく、期待もしていなかった。そういった背景を鑑みると、学生にとって大学が親しみにくい場所として捉えられていると考えられる。

教職員目線に立つと、学生への支援体制は整えている状態にある。しかし支援体制を知らない学生が見受けられる現状を鑑みると、学生へ情報がうまく伝わっていないと考えられる。

上記 2 点の状況が発生する根本的な原因としては、教職員が学生のニーズを把握していない事や、情報が上手く伝わらない事が考えられ、学生にとっては支援を受けている事が感じられないと受け止められてしまうのではないかと考えた。

この結果、**学生の心の拠り所が大学にない状態になり、学生の気持ちが大学から離れていってしまう**と考えた。

テーマの決定

学生のベクトルを大学へ向けさせるためには、入学初期段階において、大学に期待が持てるよう、支援体制を明確に打ち出す必要があると考えた。結果、入学初期の段階で、目的意識が芽生え、学生にとって大学が期待を持てる環境であると感じる事ができれば、自

然と大学への興味が向くと考えた。そこで、本グループのテーマは

出口を見据えた入口の整備

とした。ここでの入口とは『入学初年度』と定義している。出口は、学生によって様々であるが、学生の進路志望の中で一般的なものと思われる『就職』と定義している。

解決策の検討

解決策として、大学・学生・企業(外部)の 3 つの視点からのアプローチが必要と考えた。

- **大学としての取り組み**
  - ➢ 学生が相談しやすい環境と知る機会を提供

    様々な知る・相談する機会を提供する事で、大学に対して学生が親しみ易さを覚えてもらう。

    例
    - ✧ 新入生ガイダンスの際に、就職支援室等の支援制度の説明の実施。また、オリエンテーションとして、学科・クラス単位での旅行・研修を実施する。
    - ✧ 学生のなんでも相談室を、学生の目の届く範囲に設置し、気軽に相談できる環境をつくる。部屋名称も、敷居高く感じないものとする。(例：コミュニケーションルーム)
  - ➢ 新入生アンケート、PROG テストの実施

    目標のない学生には、早期に目標を発見させる。
    目標のある学生には、早期に自己分析による課題発見に繋がる。

    例
    - ✧ 入学して間もない段階で、自身の適性や不足している所を知ってもらう為に、PROG テスト等の適正テストを実施する。
  - ➢ イベントの良さや大学の取り組みの浸透

    情報をうまく伝える事で大学に関心を持ち、通学の機会を増やす。

    例
    - ✧ キャリアイベントのお知らせを学生にメールで配信する。

- **学生からの取り組み**

  学生が主体的に行う事により、敷居の高さを取り払い、気軽に相談することが可能となる。
  - ➢ 学生から学生への支援を行う

    例
    - ✧ 業界毎にグループを結成する就職班を実施し、学生同士の意見交換を行う。
    - ✧ 上級生による基礎科目の補習教育・初年次教育を、下級生に対し実施する。

- **企業等の外部からの取り組み**

  実際の具体例を示すことにより、明確な将来像を描きやすくする。
  - ➢ 企業から人材を招いてのキャリア授業の実施

    例
    - ✧ 企業を大学へ招聘し、1 年次より学内でのインターンシップ、又は産学連携授業を実施する。
    - ✧ 正課の必修授業でキャリア教育を導入する。
  - ➢ <u>ロールモデルの提供</u>

    例
    - ✧ 内定者、OB の学修履歴を開示する。

まとめ

出口を見据え、入学初期段階より大学・学生・企業（外部）の 3 つの視点からの、上記に示した支援を行う。この支援により、学生は大学への関心が向くようになり、支援を積極的に活用する事が期待できる。結果、就職と定義している出口の段階で、自信を持って社会に出る事ができるという結論に至った。